

大会成功のため

# 日刊 動労千葉

86. 8. 30

No. 2334

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七・七〇七

# 国労内一部の「労使共同宣言」受け入れ策動を許すな 中曽根・杉浦の弱腰＝動労革マル松崎を打倒せ

**動労千葉 大会の成功をとり、叩く全国鉄労働者  
ヤリ回定期 団結・総決起で、秋の正念場決戦にうそ出さず**

「国労に未来はない」「国労を解体せよ」あげくに「国労幹部は大阪弁というアホだ」（鉄労・志摩）——とまでマル生四組合から浴びせられながら国労中央はいまだに国鉄当局に対し「大胆な妥協」——「労使共同宣言」の受け入れを策動している。妥協したら生きのびれるのか。屈服したら、何もしなければ許してもらえらるというのか。「共同宣言」は国労を解体する攻撃である。国労指導部の裏切りを断じて許してはならない。動労革マル・真国労・鉄労・全施労・産業協議会の解体へ総力をあげて今こそ決起しよう。

## 「共同宣言」は奴隷への道

八二年一月、動労全国戦長会議に『国鉄問題に関する動労の考え方』が出され、第二鉄労化、国労解体へ暴力と組合機関を利用した組合のファシスト的ひきまわしで組合員に有無を言わせず突き進んでいった。

そして松崎は当局と「労使共同宣言」をつくり「働き度を高める」「三本柱クリアー運動」を組合員におしつけ「労働者は自分の生活や生命を守るためには奴隷になるべきである」すなわち労働者は資本家の奴隷になれば、自分の生活や生命を守ることができるとして動労組合員を地獄にひきずりこもうとしている。

この松崎の『考え方』方針は、「動労革マルの延命」路線なのだ。

## 「考え方」の破産と 歯止めなき裏切り

労働者は奴隷になつていれば自分の生活と生命を守れるというのか。労働者がたたかいを放棄すれば、当局・資本家は労働者を守ってくれるとでもいうのか。断じて否である。なぜなら国鉄労働者がたたかいを放棄したとしても「国鉄赤字」など何ひとつ解消できないのである。

そこには、低賃金と労働強化と合理化——首切りしかないのだ。

「動労革マル延命」のための『考え方』方針は、動労の第二鉄労化——動労解散、国労・総評解体——産業報国会化へと行きつくところまでできている。

## 分割・民営化の勝負は まだ何も決着していない

この松崎が「国労などいなくなった方が世のため人のためになる」と言っているのだ。この裏切り者によって「広域配転」「多能化教育」によって職場を奪われ「人材活用センター」など許せるか。八月二七日には「第二共同宣言」がだされようとしており、九月十一日にはいよいよ「国鉄国会」が召集される。

九・七国鉄労働者全国交流会へ総結集し、たたかう国鉄労働者の大同団結をつくり出し、総反撃にうってようではないか。

われわれは、血を流し切り拓いた地平をさらに打ち固め、まさに真価の問われる今、労働者人民の決起を固く信じ、勝利するために、すべての闘いを全力で闘いぬかなくてはならない。

第十一回大会の圧倒的成功をかちとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！